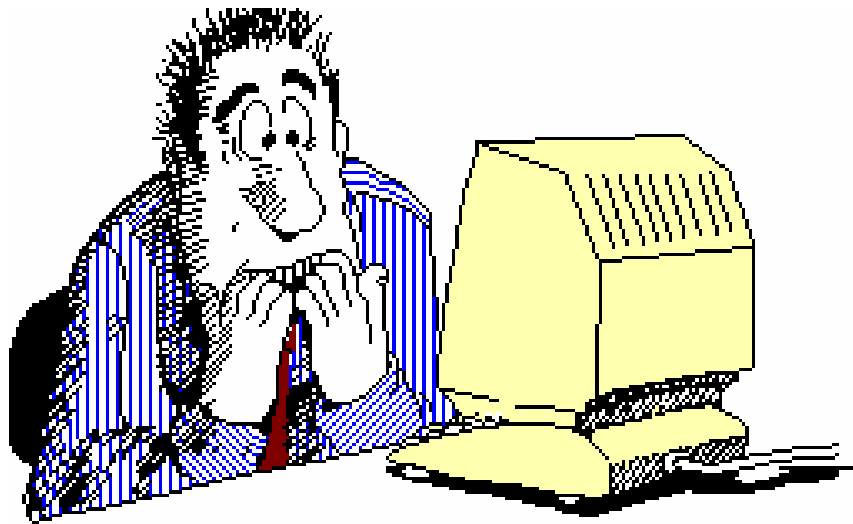


Wonder Scope for Win



Megaton House

目次

1.	はじめに	P 2
2.	使用環境	P2
3.	インストール	P2
4.	操作方法	P3
	注意事項	
4-1.	起動設定	P3
4-2.	条件設定	P3
4-3.	画面の説明	P4
4-4.	モニタ	P6
4-5.	データの読込と保存	P7
4-6.	基本操作手順例	P7
5.	保守	P9

1. はじめに

弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

「Wonder Scope for Win」はRS232C 調歩同期信号の内容をモニターすることを目的としています。パソコンを使用してモニターを行うため、回線速度の上限などに制約がありますが基本仕様は次のようになります。

基本仕様：

調歩同期/半2重（2CH 同時受信はできません。）

COMポート：1～8

回線速度：110/300/1200/2400/4800/9600/19200/38400/57600/115200bps

（パソコンの受信可能速度によります）

パリティ：NONE/EVEN/ODD

データ：7/8 bits

stop：1/2 bits

表示文字コード：HEX/ASCII/JIS

タイムスタンプ：時/分及び100mSec 単位インターバル(Max:10Sec)

ロギング：2日/1週間モード。ラウンドロビン方式。

ログデータテキスト変換(HEX 表記のみ)

OS：Windows95・98・NT・2000・XP

構成部品：

・ワンダースコープコネクタ	1
・付属ケーブル	1
・CD	1
・マニュアル（本書）	1
・接続方法書	1

2. 使用環境

OS：Windows95・98・NT・2000・XP がインストールされたパソコン。

CPU：Pentium133MHz 以上

COMポートを持つPC（USB シリアルポートでは動作保証致しかねます）

インストールに必要なHD容量：2MB

ログを行う場合は必要に応じてHDをご用意ください。ファイルサイズは、1受信データにつき2バイト必要です。更にタイムスタンプとインターバルが付加されますのでご注意ください。

3. インストール

インストールを行うには、CDの”Setup.EXE”を起動してください。

アンインストールを行うには、「コントロールパネル」の「セットアップの追加と削除」から”Wonder Scope for Win”を選択してください。

4. 操作方法

モニタを行う前に準備してください。

【注意事項】

- ・コントロールパネルの「システム」を起動し「デバイスマネージャ」の通信ポートプロパティで「詳細設定」を選び「F I F Oバッファを使用」のチェックをはずしてください。
- ・ログモードにしてモニタ開始停止を繰り返した場合、同日中は既にあるファイルに追記で書き込まれます。
ログファイルには必ず通信条件が1 byte 目に付加されます。通信条件の付加は1 回限りです。同日中に途中で通信条件を変えた場合はログに記録された通信条件と合わなくなりますのでご注意ください。
- ・データ表示をASCII 又はJIS に設定した場合、データによっては表示できない文字が有ります。用意していないキャラクタコードはHEX で表示しますのでご了承ください。
- ・タイムスタンプのインターバルはパソコンがBUSY 状態にあるときは誤差が生じます。

4-1. 起動方法

「スタート」ボタンの「プログラム」から Wonder Scope for Win を起動してください。

4-2. 条件設定

①回線とログの条件設定を行ってください。

メニューの「ファイル」-「設定」でウィンドを表示します。



ログファイルは自動的に次の名称で保存されます。

2 日間モード : DAYNEW.LOG (当日ログファイル)

DAYOLD.LOG (前日ログファイル)

1 週間モード : MON.LOG (月曜日ログファイル)

TUE.LOG (火曜日ログファイル)

WED.LOG (水曜日ログファイル)

THU.LOG (木曜日ログファイル)

FRI.LOG (金曜日ログファイル)

SAT.LOG (土曜日ログファイル)

SUN.LOG (日曜日ログファイル)

ログファイルの仕様 :

ログファイルを新規に作成する際には通信条件設定を書き込みます。

同名のファイルで日付が異なる場合は既存のファイルを削除して新規に作成し直します。

同名で同日のログファイルがある場合は追記します。

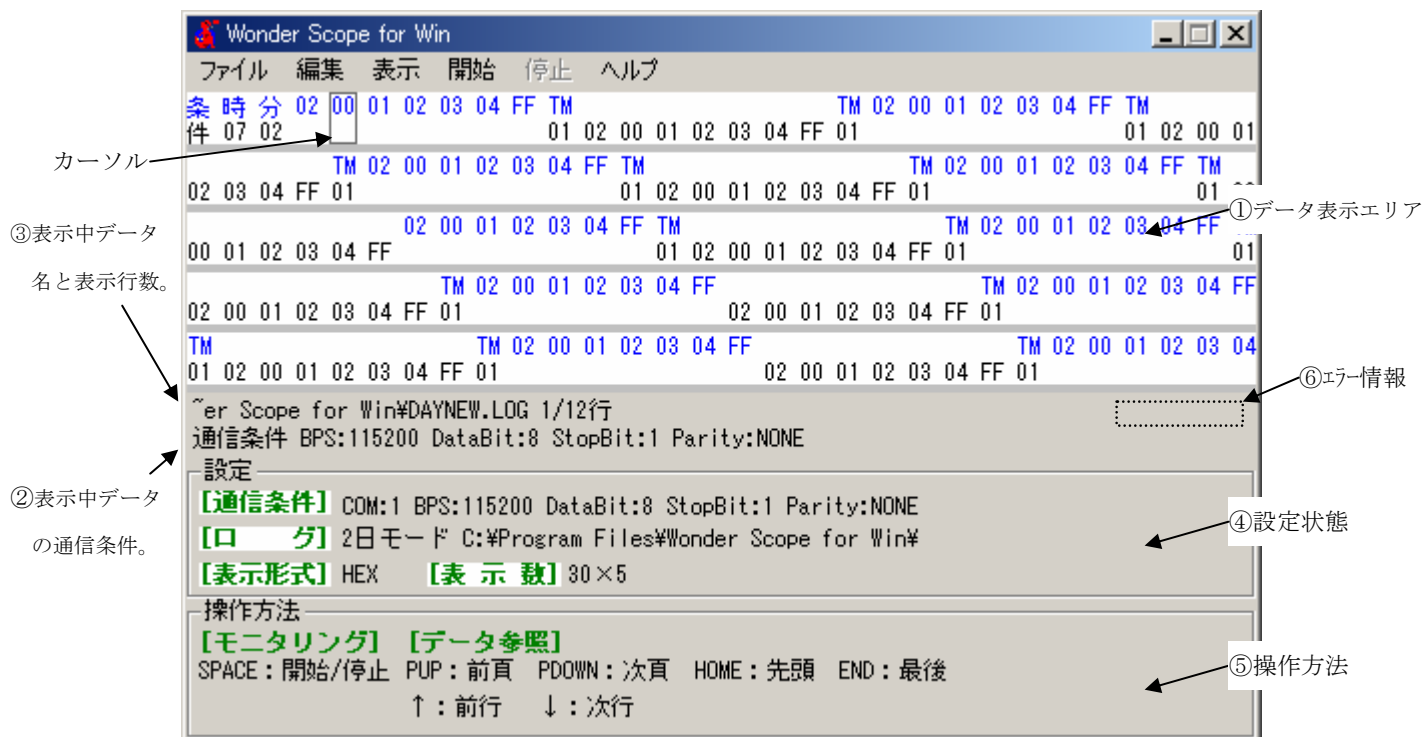
②モニタデータの表示形式を選択してください。

メニューの「表示」-「モニタデータ」を呼び出してください。

表示形式には HEX/ASCII/JIS があります。

注意 : ASCII 又はJIS を設定した場合、データによっては表示できない文字が有ります。用意していないキャラクタコードはHEX で表示しますのでご了承ください。

4-3. 画面の説明



① モニタデータ表示内容

データ表示エリアの上段が CH1、下段が CH2 を表示しています。データは選択した表示形式で表示します。

モニタデータにはデータ間インターバル、タイムスタンプが付加されます。

TM インターバル：左の例は 2 秒です。単位は 100mSec(Max10 秒→表示は"OV")

時 分 タイムスタンプ：1 分毎に分を、1 時間毎に時を表示します。
13 12 モニタ開始時には必ず時分が付加されます。

保存したファイルを画面に読み込み表示した場合には 通信条件を表示します。

条件 データをログしたときの通信条件を、画面左端②表示中データ名の下に表示します。

オフラインのデータを表示している時はカーソルを表示します。

標準のカーソルは灰色で、検索中のカーソルは赤い枠で表示します。

保存したファイルをデータ表示エリアにドラック&ドロップするとファイルを読み込みます。

ラインの上(データの行間)をクリックするとカラーBOX が現れてライン色の選択ができます。

②表示中データ名

表示中データ名には次の4種類があります。

モニタ中：“RUN 中”

ログ付でモニタ中：“RUN 中 LOG 中”

モニタを停止した時：“モニタデータ 表示行”

画面にログ(または WSP)ファイルを表示中：“ファイル名 表示行”

(ファイル名の上にマウスを持って行くとファイル作成日を表示します。)

③表示中データの通信条件

データ表示エリアに表示しているデータの通信条件を表示しています。

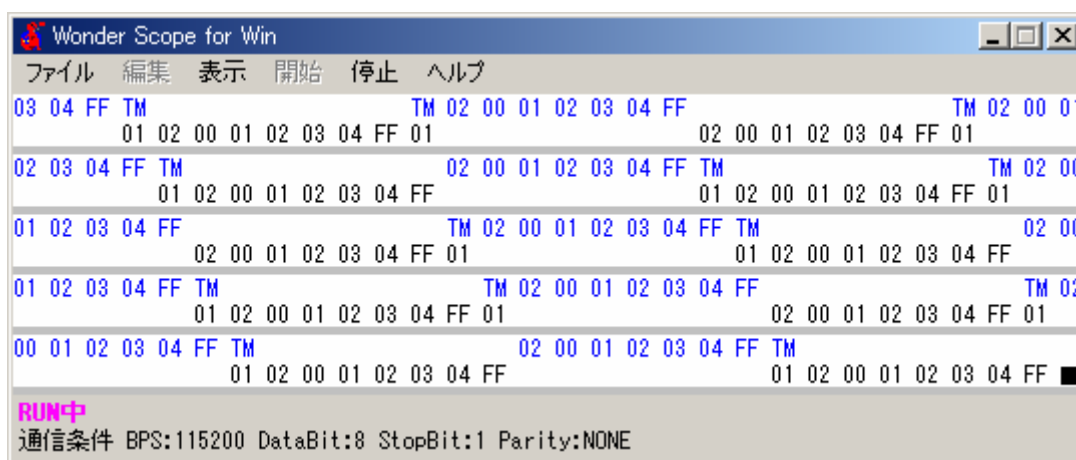
④設定状態表示

モニタを行うときの通信条件等の設定を表示しています。

表示の必要がない時は画面メニューの[表示]－[設定]でチェックを外してください。非表示になります。ここで各設定を変更することも出来ます。文字の白い部分をクリックすると設定ウインドを呼び出します。

⑤操作方法表示

表示の必要がない時はメニューの「表示」－「操作方法」のチェックを外してください。非表示になります。



⑥エラー情報

モニタ中に発生したシステム的なエラーを表示します。

例1) COMポートのオープンエラー

例2) ログファイル書き込みエラー

4-4. モニタ

- ①モニタ開始：メニューの「開始」またはスペースキーで開始します。
- ②モニタ停止：メニューの「停止」またはスペースキーで停止します。

Wonder Scope はメモリに最新の 64K バイトのモニタデータを持っています。
モニタを停止すると、メモリ内のデータを参照できます。

③モニタデータ参照

キー操作で行います。モニタを停止しないとデータ参照は行えません。

カーソル左：← カーソル右：→ カーソル前行：↑ カーソル次行：↓

前ページ：Page Up 次ページ：Page Down

先頭：Home 最後：End

④モニタデータ検索

[時刻で検索]

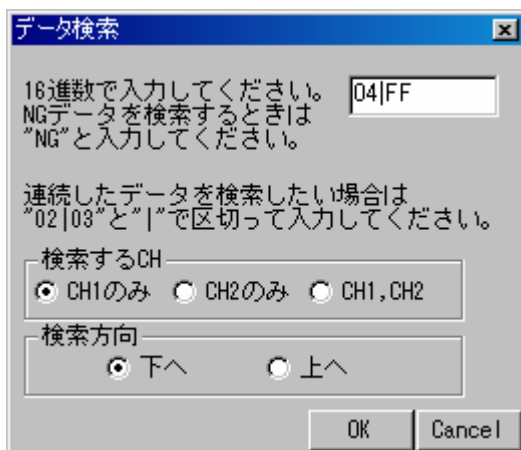
メニューの「編集」-「ジャンプ」-「時刻」で検索する時刻を設定してください。

[行で検索]

メニューの「編集」-「ジャンプ」-「行」でジャンプする行を設定してください。

[データで検索]

メニューの「編集」-「データ検索」を選択してウィンドを呼び出してください。



検索データの設定は 16 進数で行ってください。(画面のデータ表示タイプは ASCII/JIS のままで検索を行えます)

1 文字検索なら”00”と、連続データならデータを”|”で区切ってください。

OK ボタンを押すとウィンドを閉じて検索を実行します。

ウィンドを閉じた後、前のデータを検索する場合は Shift+F3 キーで、後ろのデータを検索する場合は F3 キーを押してください。

4-5. データの読込と保存

①ファイル読込み

保存したファイルを画面に読込みます。拡張子が”LOG 又”は”WSP”を対象に読み込みます。メニューの「ファイル」-「開く」を選択します。

②データ保存

画面に表示中のデータを任意の名称で保存することができます。

メニューの「ファイル」-「保存」を選択します。

Wonder Scope で扱う拡張子は”WSP”, ”LOG”, ”TXT”です。

“WSP”と”LOG”は同じフォーマットで保存されます。

拡張子を TXT にして保存すると、テキスト形式で保存します。

モニタデータフォーム：画面で選択中の表示形式で書込まれます。

40 データ目で改行します。

4-6. 基本操作例

①ログを行わずにモニタを開始～モニタ停止まで。

まず準備が必要です。

メニューの「ファイル」-「設定」でウィンドを開き、通信条件を設定してください。

ログのモードを”なし”に設定してください。

メニューの「表示」-「モニタデータ」で表示形式を選択します。これで準備は完了です。

モニタを開始します。

メニューの「開始」をクリックしてください。

必要なデータが取れたらモニタを停止して採取したデータを参照します。メニューの「停止」をクリックしてください。次はモニタデータを参照、保存します。

②モニタデータ参照～検索、モニタデータ保存まで。

モニタデータ参照。

モニタを停止すると最後に受信したデータを表示します。ワンダースコープは最新データを 64K バイトまで保存しています。キー操作で見たい行を表示してください。

また、行を指定することができます。

行でジャンプ。(メニュー「編集」-「ジャンプ」-「行」)

時刻でジャンプ。(メニュー「編集」-「ジャンプ」-「時刻」)

モニタデータ検索。

データを検索したい場合はメニュー「編集」-「データで検索」で検索するデータを設定してください。

モニタデータ保存。

必要に応じてモニタデータを保存できます。(メニュー「ファイル」-「保存」)

モニタリングが 64K バイト以内で済む場合はログを行わなくてもデータを保存できます。

ファイル名は任意です。ログと区別する為に”WSP”という拡張子を用意してありますが、ログと保存形式は同じです。”WSP”、”LOG”どちらかの拡張子を選択してください。

テキスト形式で保存したい場合は拡張子に”TXT”を設定してください。

保存したファイルはメニューの「ファイル」-「開く」で参照できます。但しテキスト形式で保存したファイルは Wonder Scope の画面では参照できません。

③ 2日間ログタイプでモニタを開始～モニタ停止まで。

まず準備が必要です。

メニューの「ファイル」-「設定」でウィンドを開き、通信条件を説定してください。

ログのモードを”2日間”に設定してください。

メニューの「表示」-「モニタデータ」で表示形式を選択します。これで準備は完了です。

モニタを開始します。

メニューの「開始」をクリックしてください。

必要なデータが取れたらモニタを停止して採取したデータを参照します。メニューの「停止」をクリックしてください。次はログファイルを参照します。

④ ログファイル読込から名前を付けて保存まで。

ログファイル読込。

保存したファイルはメニューの「ファイル」-「開く」で参照できます。”DAYNEW.LOG”を選択します。読み込んだファイルは先頭データから表示します。

名前を付けて保存。

読込んだログファイルを別の名前で保存できます。(メニュー「ファイル」-「保存」)

ログと区別する為に”WSP”という拡張子を用意してありますが、ログと保存形式は同じです。”WSP”、”LOG”どちらかの拡張子を選択してください。

テキスト形式で保存したい場合は拡張子に”TXT”を設定してください。

5. 保守

初期不良をのぞき、実費にてご交換致します。

ワンダースコープコネクタ :	7,350 円
付属ケーブル :	3,990 円

お問い合わせ先 :

Fax:045-941-2210 W S 係

Email : support@megaton.co.jp

ソフトのバージョンアップ : 無償です。

随時バージョンアップする予定です。

弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.megaton.co.jp/>

Wonder Scope for Win マニュアル

記載された商品名、社名等は各社の商標または登録商標です。

ご注意 :

◎本製品の一部または全部を無断で複写・複製をすることは禁止されています。

◎本製品の内容は将来予告なしに変更することがあります。

1 版 2003 年 12 月 10 日 3 版 2006 年 12 月 14 日 5 版 2007 年 04 月 03 日

2 版 2005 年 09 月 22 日 4 版 2006 年 12 月 28 日 6 版 2007 年 05 月 17 日

株式会社メガトンハウス 〒224-0041 横浜市都筑区仲町台 1-34-3